

2016

レース結果報告書

全日本選手権第1戦(筑波)

併催:筑波選手権 第2戦

茂木選手権第2戦

全日本選手権第2戦(鈴鹿2&4)



DOG FIGHT R

株式会社ドッグファイトレーシング

レース

Race

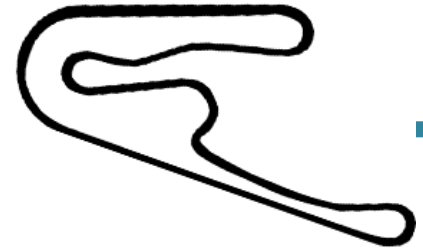
レースシーズン本番を迎えた4月は9日の筑波を皮切りに、茂木、鈴鹿と3週連続のレースとなり、ご報告が大変遅くなり誠に申し訳ありませんでした。怒涛の3週連続レースの結果をご報告させていただきます。

4月の初戦は全日本選手権開幕戦で始まりました。注目のMFJカップ・JP250に当チームからは折川翔馬と武佐英典の若手とベテランの2名が参戦。56台のエントリーを集め半分近くが予選落ちとなる激戦となったレースでしたが、地元の筑波サーキットで恥ずかしいレースは出来ません。気合を入れて臨んだ決勝レースでは、ベテランらしく冷静に状況を見て走り切った武佐選手と、結果を求めて果敢に攻めた折川選手の明暗が分かれる結果となりました。武佐選手が総合3位・国内クラストップでチェッカーを受けたのに対し折川選手は転倒リタイヤと明暗を分けた結果となりました。

続く茂木選手権には若手育成中の伊能選手が参戦。開幕戦は予選の転倒による脳震盪でドクターストップで不出場となった伊能選手が雪辱を晴らすために臨んだ第2戦でしたが、気持ちと走りがかみ合わず予選でまたしても転倒を喫してしまいます。今回は大事に至らず決勝にも参加できましたが、マシンセットが狂ってしまったまま臨んだ決勝では、思うようにタイムアップが出来ないままトップグループに離されてしまいます。それでも激しい5番手争いを最終ラップで制して貴重なポイントを獲得してくれました。

そして先日開催された全日本選手権第2戦は鈴鹿8時間耐久の出場権をかけたトライアウトレースに指定されており、今年8耐参戦を目指すオージーペアのマークアチソンとコーリーターナーの2名が参戦しました。二人はFIMライセンスなので、全日本選手権しか出場できません。したがって今回のトライアウトが最初で最後のチャンスであり絶対に負けられないレースでしたが、見事に総合16位：トライアウトをトップで通過する事が出来ました。

レース



Race

トンベイ名 : 全日本選手権第1戦(筑波選手権 第2戦)

開催日 : 2016年4月9日

スーレ結果: JP250 #63 武佐英典 予選7位 決勝3位(国内クラス1位)
JP250 #61 折川翔馬 予選10位 決勝転倒リタイヤ
ST600 #75 高岡寛之 予選不通過

WEBリザルト :

http://www.mfj.or.jp/user/contents/race_result2016/road_race/2016result/rd01/jp250_final.html

事前テストでいち早く1分6秒代のタイムを記録していた武佐は周囲からマークされる格好となり、レースウィークに入ってからクリアな状況で走る事が出来ずに思うようにタイムを詰められないまま公式予選を迎えました。ベストには及ばないもののなんとか6秒台を記録して総合7番手からのスタート。マシンも走っていて混戦になれば面白い展開を期待していましたが、しかしここでトラブルが発生。大型ラジエターから水漏れが発生して急遽ノーマルラジエターへ換装。黄色信号が灯った中決勝がスタートしました。ベテランの武佐は与えられた状況で冷静に最善を尽くす走りを見せてくれました。レース序盤からトップ5台の集団の中で様子を伺い、水温が上がらないよう気を遣いながらポジションを守りきり最終ラップに前を走るライダーの転倒もあり3位でチェッカー、国内クラス優勝を飾りました。

一方若手の折川選手は、事前テストで6秒代は記録できませんでしたがテストを繰り返すごとに着実にタイムアップを図り公式予選で6秒台に突入。決勝ではトップ集団に追いつくために果敢に攻める走りですが、ミスを突かれてポジションを下げてしまいます。その遅れを取り戻すために攻めすぎた結果7周目の第一コーナーでスリップダウン。転倒リタイヤとなってしまいました。

コメント

Ofisyaru Comment

武佐英典

「ラジエターの問題で水温が高かったので予選の時のようなパワーが無いので勝負が出来なかったのは残念ですが、トップ集団には余裕をもって付いていけたので、最後までチャンスがあると思って我慢のレースでしたが、結果を残す事が出来て良かったですね。マシンを万全に整えて、菅生、茂木も勝ちを狙っていきます」

折川翔馬

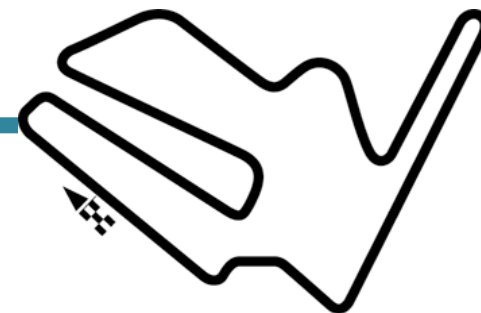
「自分が立てた目標タイムに届かなくて残念です。また、タイムを意識しすぎてマシンセットアップよりもタイムアタックにばかり時間を使ってしまいマシンを仕上げる事が出来ていませんでした。その結果レースで無理をして転倒してしまい開幕戦を台無しにしてしまいました。今回の反省を踏まえて、この後の練習プランをメカニックと一緒に立て直して、菅生では表彰台を目指します。」

監督

「MFJカップで自分たちのマシンがどこまで通用するのか楽しみにしていました。最も意識していたカワサキ勢との差はだいぶ詰まってきましたが、関西勢のヤマハ車がインフィールドで速く今後の課題ですね。結果を持ち帰ったベテランの武佐と、果敢に攻めて転倒した若手の折川。明暗が分かれたけどどちらも多くの物を得る事が出来たと思います。今回は二人とも合格点です。そして次戦は二人揃って表彰台に上げられるようチーム一丸でバックアップしていきます。」



レース



Race

トンベイ名 : 茂木選手権 第2戦

開催日 : 2016年4月16日

スーレ結果:	JP250	#78	伊能直矢	予選5位	決勝5位
	JSB1000	#98	中澤孝之	予選1位	決勝4位
	ST600	#555	池田英樹	予選15位	決勝転倒リタイヤ

WEBリザルト : http://www.twinring.jp/result_m/2016/2wheel/0416_jp250_f.html

JP250/伊能直矢

開幕戦を脳震盪により欠場した伊能が迎えた第2戦。事前テストでは18秒台で周回できていた伊能ですが、予選では思うようにタイムを伸ばせず、19秒台のタイムで5番手に沈む。決勝でもスタート後に集団に埋もれてしまいトップ集団から引き離されてしまい、5番手争いを展開。最終ラップにベストラップを記録して5位をもぎ取りますが18秒台で展開されたトップ集団委は一度も絡むことなくレースを終えました。

JSB1000/中澤孝之

予選直前までウエットコンディションでしたが、徐々に乾き始める路面の変化を読んでラスト10分にドライタイヤでタイムアタックに入った中澤がラストラップに逆転でポールポジションを獲得。決勝ではセットアップを詰め切れなかったツケが出てトップを守る事が出来ず4番手でゴール。

ST600/池田英樹

ウエットコンディションに替わった決勝レースで15番手からスタートした池田は徐々にポジションアップ。ウエット路面で徐々にペースを上げていきますが7周目に第5コーナーで痛恨の転倒。そのままリタイヤとなりました。

コメント

Ofisyaru Comment

伊能直矢

「思うようにタイムを上げる事が出来ず、決勝でもトップ集団に離されてしまい悔しいレースになってしまいました。もっともっと走り込んでマシンを理解して速く走れるライダーのなりたいと思います。」

中澤孝之

「ドライ路面で走り込む事が出来なかったため、セッティングの方向を間違っ
てしまい決勝のドライコンディションではコーナーごとに悪戦苦闘する展開
になってしまいました。マシンセットアップを一から見直して全日本選手権・茂
木大会でのポイント獲得と茂木選手権の次戦は優勝を目指します。」

監督

「伊能も中澤もマシンセットアップが上手くいっていないのは理解しますが、
それでもレースが始まったら言い訳無用。もっと勝負に執着して最後まで
諦めないファイティングスピリッツを見せて欲しかったですね。特に伊能は
冬から取り組んできた走り方やライン取りのテーマを全て忘れてつまらな
いレースをしていました。もう一度取組み方を考え直して次戦に向け鍛錬
してほしいと願います。」



レース

Race



トンベイ名 : 全日本選手権 第2戦(鈴鹿2&4)

開催日 : 2016年4月24日

スーレ結果: JSB1000 #88 Corry Turner , Mark Aitison 予選16位 決勝16位
8耐トライアウト1位通過

WEBリザルト :

http://www.mfj.or.jp/user/contents/race_result2016/road_race/2016result/rd02/jsb_final.html

木曜日の特別走行、鈴鹿2&4初日。朝一のセッションは小雨がパラつきましたがギリギリドライで走ることが出来ました。マークは今回がR1に初ライド。「コンディションが悪いので2周で帰ってくるね」と言ってコースインしたのに、3周目に13秒に突入。そのまま周回して5周目には今回のレースの目標タイムの12秒に突入。ピットに戻ると、僅か7周しかしていないのに前後サスのバランスやスプリングレートの変更、エンジブレーキのフィーリングなど非常に多くの情報を持ち帰ってきてくれました。まさしくプロフェッショナルライダーです。金曜日のフリー走行も朝のセッションは路面コンディションが悪く、午後の40分の走行時間で二人のバランスを合わせ込みながら短い走行を二人で分けて公式予選に向け準備を進めます。

土曜日の公式予選は昼の45分1回のみ。これを二人でアタックしてベストタイムを目指します。まずはマークがコースイン。クリアラップが取れない状況でも周回ごとにペースを上げて遂に10秒台に突入。ピットインしてマシンフィーリングを伝えてからライダー交代。変わったコーリーも13秒フラット迄自己ベストを更新、クリアラップなら12秒に入っていたでしょうから決勝が楽しみです。

予選結果は総合16番とファクトリーバイクを抑えて上々のポジションからスタートです。今回の第一目標である8耐参戦権獲得の為の8耐トライアウトでは1位のポジションでこのまま決勝を無事に走り切るための最後の作戦を練り決勝に臨みました。

レース

Race

ファクトリー勢は皆ピットインと同時にタイヤ交換ですが、今回当チームはタイヤ無交換を選択。スタートライダーがマークですから、第2ライダーのコーリーは厳しい走りとなりますが、テストでの走りから十分いけると読んで無交換を選択しました。

そして迎えた決勝。ここで痛恨のミスが。マシンに駆け寄りエンジンをかけたマークですが、ギヤがニュートラルになったままだった為、一瞬出遅れてしまい中段グループに呑みこまれてしまいます。しかしそこから周回ごとに順位を挽回し遅いライダーを交わしながら11秒代のハイペースで周回を重ねてゆきます。12周目には10秒台に突入して8耐トライアウトのトップに浮上。この後のコーリーの為にタイヤを温存しながらの走りでも驚異的なスピードで予定の18周を終えピットインします。バトンを受けたコーリーは摩耗したタイヤにもかかわらず自己ベストと同じ13秒台で周回を重ねます。後方からはトライアウトのトップを争う鈴鹿のベテラン寺本選手が迫ります。一度は寺本選手に交わされますが、コーリーは再び抜き返し激しいドッグファイトを展開。2台の激しい争いのままレースは終盤に向かいます。すると29周目の最終コーナーで転倒が発生。このタイミングで赤旗が出てレースは終了。寺本選手を抑え込んだコーリーは総合16位、8耐トライアウトのトップでゴール。目標の8耐出場を決めました。



スポンサー

Sponsor

Sponsor



ご支援・ご協力を賜り誠に有難うございます。次戦も頑張ります！

